

家族社会学、セクシュアリティ論、ユースサービス論

最近では、男性介護者に関する調査研究を通じて、ケアとジェンダーをマスキュリニティ（男らしさ）という観点から分析しています。もう1つは、デートDVに関するアクションリサーチをしています（詳しくは「恋愛イズムプロジェクト」へ）。親密な関係性における愛情と暴力の交錯および社会的支援のあり方について関心をもっています。

また思春期保健相談士として、若者のセクシュアルヘルスを支援する活動もしています。

1. 専門演習の目標

この専門演習では、家族の変容の様々な断面を、近代家族の存立構造および現代社会とのかかわりの中で分析し、理解を深めることを目指します。家族は極めて「個人的」領域（親密件）でありつつも、それは同時に「社会的」領域（公共圏）との相互作用の中で変動します。家族を客観的に分析する力を養うことによって、自らの置かれている社会を読み解く力を習得することを目指します。

2. 専門演習で扱う課題と内容

専門演習では、まず、家族の分析に必要な家族社会学を中心とする基礎学力をつけたうえで、具体的なトピックスを取り上げ、集団的・個人的に分析を進めていきます。その分析対象には、社会制度としての家族関係の変化（「婚活」、晩婚化、離婚など）のみならず、近代家族が結合原理としている愛情をめぐる諸問題（DV、デートDV）、ジェンダーおよびセクシュアリティにかかわる問題（家事分担、同性婚など）、子育て・介護、生殖技術などがその事例として挙げられます。基礎学力を応用して、こうした一連の現象を多角的に分析する力を養うことを目指します。また、ゼミ生の合意が取れば、有志で、「恋愛イズムプロジェクト」に参加し、高校等への出前講座等も行います。

専門演習は、学生はもっとも自発的に研究できる場面でもあります。また、集団学習というメリットを生かし、活発な意見交換を通じて、自らの視野を広げることができます。したがって、全体を通じて、ゼミの運営は、学生の積極的参加・主体性に基づいて運営していきます。また、ゼミの時間以外でのゼミの交流も重視します。

3. 授業の進め方・内容

3 回生前期：基礎的テキストの通読を通じて、その後の家族分析およびディスカッションのための共通基盤をつくります。

3 回生後期：関心のあるトピックスに応じて、グループを編成、グループ発表を行います。

4 回生前期：卒業論文のテーマに即して、個人発表を行います。

4 回生後期：卒業論文の経過報告を順次行っていきます。

4. 必要とする知識

社会学の基礎的知識、家族社会学に関する基礎知識、現代社会の変化に関する強い知的関心。

5. 関連する分野・科目・知識

家族社会学、ジェンダー論、比較ジェンダー論、家族関係論、ユースサービス論など

6. テキスト・参考書・機材（受講生が標準的に持つもの）

山田昌弘『迷走する家族：戦後家族モデルの形成と解体』有斐閣

デビット・ノッター『純潔の近代：近代家族と親密性の比較社会学』慶応義塾大学出版会

7. 独自に付加する選考方法

レポート提出後、個人面談を行う場合があります。

8. 受講生に望むこと

まず、自ら研究することに積極的な学生を望みます。同時に、家族分析は自らの家族観を問い直す作業でもあります。そのこともいとわない、精神的にタフな学生を望みます。